

第1回公開シンポジウム

諏訪大明神、降臨す

—中世諏訪における密教と神の出会い—

2022年10月8日(土)

14:00～17:00 (13:30開場、先着順 定員70名)

開催場所： 諏訪市・駅前交流テラス「すわっチャオ」会議室

講演テーマ： 中世日本の神仏習合と「諏訪流神道」 (岩澤知子)

密教儀礼からみる『諏訪大明神深秘御本地大事』 (岩崎宥全)

諏訪流神道における「大祝」のシンボリズム (三好祐司)

第2回公開シンポジウム

「諏訪胎生学」

—中世諏訪と縄文をつなぐ「大地・子宮」の思想—

2022年10月23日(日)

14:00～17:00 (13:30開場、先着順 定員70名)

開催場所： 諏訪市・駅前交流テラス「すわっチャオ」会議室

講演テーマ： 諏訪流神道における「胎生学」的思想 (岩澤知子)

大地に描かれた縄文「胎芽」像が語るもの

—「人間を超えた人類学」〈諏訪流〉に向けて— (田中基)

入場無料

事前申込不要・先着順

各日定員70名

中世の諏訪

を見つめる。

主催：諏訪胎蔵会 共催：諏訪神仏プロジェクト、諏訪信仰研究会「スワニズム」

このシンポジウムは JSPS 科研費 JP19K00110 の助成を受けたものです。

諏訪流神道 —それは、中世における神と仏の結び合い。

わが国古来の自然信仰に根ざした神を祀る諏訪大社。しかし、その諏訪の神が、かつて仏教と密接な関係にあったことは、これまでほとんど語られてきませんでした。日本中に広まった中世の「神仏習合」が、この諏訪でどのように花開き、古来の諏訪の神と結びついたのであるのか。このシンポジウムでは、室町時代の神長・守矢満実が残した史料の解読をもとに、その謎に迫っていきます。

諏訪胎蔵会メンバー



田中 基

スワニミズム研究会顧問

人類学・民俗 / 民族学・考古学季刊誌『どるめん』を編集。古部族研究会で古諏訪祭政体について研究するかたわら、「縄文造形研究会」では縄文土器図像の神話文脈への変換を模索。著書に『縄文のメドゥーサ』（単著）、『諏訪学』（共著）など。



岩澤 知子

麗澤大学国際学部教授

専門は比較宗教・比較思想。「日本人にとって神とは何か」を、西欧の一神教との比較を通して探究している。中でも「諏訪信仰」を中心テーマとし、2010年からは諏訪郡原村に拠点を置き、諏訪のフィールド調査に携わる。米ボストン大学博士（宗教哲学）。



三好 祐司

写真家、民俗信仰研究者、行者

東海大学文学部文明学科卒。文明学、宗教学、民俗学を学ぶ。広告写真の道に進むが、歴史民俗の分野に立ち返り、写真だけに留まらない幅広い活動を展開している。諏訪への移住を機に、スワニミズムに所属し諏訪信仰研究に注力、また甲斐駒ヶ岳で修行し神仏習合の現場に携わる。



岩崎 宥全

佛法紹隆寺第三十九世住職

佛法紹隆寺第三十八世宥昶師の長男として生まれる。密教について研鑽を積むと共に仏教美術に興味を持ち仏像研究などを行う。平成14年に帰郷し、平成31年より佛法紹隆寺第三十九世住職に就任。地域に開かれたお寺を目指し、「紅葉三山めぐり」などの取組みをおこなっている。

諏訪胎蔵会とは

「諏訪胎蔵会」は、中世諏訪の神仏習合史における「諏訪流神道」の研究を進めることを目的として、2021年3月に発足。神長・守矢満実が著した『諏訪大明神深秘御本事大事』の解読を中心に据えながら、中世日本の宗教思想史の中に諏訪信仰を位置付けるとともに、そこから生み出された「諏訪流神道」の独自性を明らかにすることを目指しています。

諏訪胎蔵会

お問い合わせ先

Email : info.suwataizoukai@gmail.com